

新西町内会広報

発行責任者
小関日出男

第61回子どもみこし開催

本隊と幼児隊は一体化し練り歩く

子どもみこしは、上川神社例大祭に合わせて21日に行われた。前日のような真夏日にはならなかったものの気温は高く蒸し、そのような天候の中、本隊と幼児隊は、同一コースをたどり、町内の出迎える人々の声援を受け無事終了することができた。

◆幼児隊に台車を用意

町内会の関係者が会場作りをし始めた7時過ぎ、子どもたちもポツポツと集まりだした。が、今回は例年より参加者は少々少ない模様。この様子を見て、生まれも育ちも現在も町内に住んでいる神社部



【写真】上から順に、「新西会館前を巡行するみこし行列」、「休憩所に安置された本みこし」、「初お目見の台車に乗りご機嫌の幼児たち」。左の「一袋に入った紅白餅」がお礼として配られました。

◆各代表者が玉串奉奠

巡行式では、新町っ子代表

長の佐々木さんは、「俺たちの頃は1学年3クラスあり、1クラス分はこの町内にいた。今も写真がある」と、巡行式の準備をしながら当時を懐かしみ話していた。61回目の今年は、干支を一步として本隊と幼児隊を一体化して巡行するよう検討がなされ、その結果、幼児が疲れないように台車(サインズキド様より製作提供)を用意することになった。

◆さあ、出発へ

幼児とベビーカーに乗った子を連れたお母さんに声をかけると、「まだ上にも、下に

のほか、「三かけ」運動を提唱している新町小学校長の横山先生、高等支援学校設立時から参加している3名の生徒担ぎ手が不足するのを側面支援してくれた宮田教頭などが玉串奉奠をし、最後に小野寺実行委員長の下二拍子に合わせ一同参拝した。その小野寺実行委員長から、「伝統の子どもみこしを今年も盛大に開催できた。みんなの笑顔と元気を町内の皆さんに届けてください」との挨拶があり巡行式は終了した。(注)「三かけ」は、教職員が子どもに接する姿勢としての「目につけ、気につけ、声につけ」を提唱。これはそのまま私たちの心がけに通じる。

もいる」とのこと。さらに、「昨年移ってきたの。なかなか経験できないことに参加でき、この町内いいですね」とのお褒めの言葉あり。乗せられてやるしかないか、町内関係者よ！

隊列の人員配置、役割の確認など藤田青少年部長の指揮のもと準備が整い、いよいよ出発。隊の先頭に立ち横一文字を肩にかけたK・しおりさんとM・しおりさん、「私たちWしおりなの」と大きな声を出し、出発していった。

子どもみこしは各家々を回り、お賽銭をいただいた家の前で「ワッショイ、ワッショイ」と掛け声を掛けながら練り歩いた。幼児たちは父さん方が引く台車に乗せてもらい移動し、降りては「ワッショイ」としていたものの、仕舞いには疲れもあり、台車の中で「ワッショイ」。へたばった子はいなかった模様。

◆熱中症にならぬように休憩

巡行途中には3カ所の休憩所が設けられ、水分の補給としばしの休息がとられた。

2カ所目の旭西第一公園には60回記念として植樹されたエゾ山桜が順調に育っていた。今年は、子どもが安らぐ日陰作りにはまだ小さかったが、次の62回には、この木の下で休憩することも出来るだろうと思われた。

とにかく暑い日となったが、熱中症にならないようにと気配りする女性軍の下支えもあり、無事到着地に着くことができた。

巡行を終え、汗と熱気で紅潮した子ども達の顔は、誰もやりきった達成感で光っていた。なお、参加人数は、幼児生徒が57名、大人は52名の計109名であった。(小関)

編集後記

六月からの天候不順も子どもみこしの前後から回復してきたようだが、これは北半球の異常気象現象のようだ▼我が家の三畳にも満たない畑に、食卓に彩りを添えようとトマトとキュウリを植えてみた▼あるホームセンターに空豆の種があったので人の畑に植えさせてもらった。ついでに枝豆も孫が来る頃には食べられると見込んで植えた▼出来は悪いが楽しみではある。後は天まかせ▼生活の懸かっている農家の人は大変だろう。それに大雨の被害▼怖いものの代表に「地震・雷・火事・親父」がある。親父はとうの昔にその地位を失ったが、国の親父ともいべき国会議員が居酒屋ごっこではしゃいでいる▼人間劣化が始まっているのか？盛者必衰は世の習いと言うが。(小関)

◆街路灯のLED化など

— 今年度は西4丁目・西5丁目通り —



◆ 街路灯のLED化は、今年度は11灯を予定しています。場所は「さくら館から堤防までの西4丁目」と「まる長ラーメン店前から堤防までの西5丁目」です。

◆ 火災報知器が鳴っても、家に人がいないと役に立ちません。近所の方は、今まで聞いたことのない音や、長く鳴りやまない音を聞いたときなど、不審に思ったときは、消防署に電話(119)をしてください。消防が確認に来てくれます。独り者が多くなり、不在者も多くなる昨今、お互いに気を付けあってください。(合田火防防犯部長談)